

全国障害者問題研究会の研究誌

# 障害者問題研究

第53巻 第4号

特集

障害児教育に携わる  
教師の主体形成に  
おける困難と展望  
を読む会

Vol.53  
No.4

日時 2026年3月26日(木) 19:00~21:00

Zoom ミーティングによる開催



過酷な日々を送る現代の教師たちが手をつなぎ、  
実践・研究・運動の担い手となっていく展望は  
どこにあるのか。政策と現場の両面から探る。

今号特集担当編集委員 荒川 智さん、越野和之さん

【話題提供】

荒井 文昭さん（東京都立大学名誉教授）

近年の教育政策と教師の主体形成

越野 和之さん（奈良教育大学）

障害児教育における教師の専門性と主体形成

【参加者の意見交流】

○参加費無料

お手元に当該号をご用意ください

（参加申し込みフォーム（右）からも注文できます）

参加申込



問い合わせ 全障研事務局 [info@nginet.or.jp](mailto:info@nginet.or.jp)

<https://form.run/@shoumonken53-4>

**特集にあたって****荒川 智**（本誌編集委員）

教師は、人類が蓄積してきた文化と子どもの発達段階や学習ニーズを整合させながら豊かな成長・発達を導く専門職である。と同時に、子どもの学習権を保障するために教育条件や自らの労働条件の改善を、他の教職員や親と共同で求め実現していく労働者でもある。この両面を充たすには、自らの力量を高めようとする主体形成が不可欠であるのだが、今の学校現場はそれが極めて困難な状況となっている。

働き方改革とは裏腹に、教員の仕事はますます多忙化している。DX化のもとで事務的な書類作りに追われ、子どもと直接向き合うことや教員同士で子どもや授業の話をする時間が奪われている。さらに心身両面での教員の健康破壊も深刻である。そしてこうした教職のブラックなイメージが広がることにより教員不足がさらに深刻化するという悪循環が慢性化している。

しかしより深刻なのは、教員の「資質」管理が緻密かつ巧妙になり、教師が主体的に力量形成していく余裕を奪っていることである。管理強化は今に始まったことではないが、とりわけ近年の養成、採用、研修の一体化政策は、現職の研修内容だけでなく、大学の養成段階での教育内容にも干渉するようになった。そして、学習指導要領の一層の締めつけと、とくに障害児教育における特定の心理技法の押しつけにより、教育研究の自由が侵害されている。

このような劣悪な教育条件や厳しい労働管理の下で、障害児教育に携わる今日の教師たちは、具体的にどのような困難に直面しているのか、その困難を乗り越え、自らを実践・研究の主人公として主体形成していく条件や展望はどこにあるのだろうか。このことを探るのが本特集のねらいである。

荒井論文は、教員不足の現状を確認し、教師の専門的自立性を侵害する近年の教員政策を批判的に分析するとともに、それを転換させるための展望と課題を提起している。

越野論文は、「未来から見た権利侵害」という観点から、茂木俊彦の著書を手がかりに障害児教育教員の専門性を再確認し、今日における主体形成のための契機を論究している。

また今回は障害児教育に携わる 4 人の中堅教員による座談会を組んだ。教員になりたての頃からを振り返り、子どもと関わる中で学んだこと、先輩教員から大切にされたこと、現在の職場の状況、教育の場での人権保障のあり方など

について意見を交換した。座談会当日の司会者 2 名からは、教育の本質論から学力観、初任の経験など広い視点でのコメントが寄せられている。

桜井報告と中島報告では、主に教職員組合の学習会や「教育の集い」を通じて、多くの教員が他の報告から学び、自らも報告する中で主体形成をしていく姿が描かれている。また榮報告は、大阪と東京での子育てと学校、お世話になった先生との出会いを通して、また自ら教師教育を学ぶ身として、教師に望むことが綴られている。

本特集が困難を抱える現場の教員に少しでも希望と勇気を与えることになれば幸いである。

(あらかわ さとし 茨城大学名誉教授)

## ■この号のもくじ■

### 特集にあたって 荒川 智 1

- 近年の教育政策と教師の主体形成 ● 荒井文昭 2  
障害児教育における教師の専門性と主体形成 ● 越野和之 10  
座談会 障害児教育に携わる教師の主体形成  
● 話し手 河相美和子・塩田奈津・太寿堂雄介・若山健太  
進行/コメント 川地亜弥子・三木裕和 18

### 報 告

- 障害児学級担任の困難と教職員組合の教育研究運動の値打ち ● 桜井佳子 32  
真に子どもたちのための教育を行おうとする教師の主体形成を求めて ● 中島芳明 38  
保護者として、教育について学ぶ者として、学校と先生にのぞむこと ● 榮 幸世 44

### 連載 実践に学ぶ

- 特別支援学校小学部の実践  
一人ひとりが愛おしく、かけがえない存在 磯部浩美 50  
【磯部報告に学ぶ】児嶋芳郎 56  
放課後等デイサービスの実践  
噛みつきを乗り越え、穏やかな関係を築いていった剛史 井原あどか 58  
【井原報告に学ぶ】竹脇真悟 64

### 連載 ワイドアングル

- インタビュー すべてのカネミ油症患者の救済と、問題の解決をもとめて  
映画『母と子の絆——カネミ油症の真実』の稲塚秀孝監督に聞く 66

### 動 向

- 災害時でも尊厳ある生活をめざして 赤松英知 72

## ●読む会へのおさそい●

障害をもつ子どもたちの教育現場で働くなかで、業務を回していくことに追われ子どもたちと向きあう時間が取れない、職場の方針に疑問をもって、なかなか声を出せない、共感してくれる仲間もいない…そうした悩みをもつ方は少なくないでしょう。

教師たちが日常に抱える悩みは、教育にかんする制度や政策とも深くかかわっています。そこに働きかけ、実際に教育条件を進歩させていくのは、子どもたちに関わる一人ひとりをおいて他にありません。

今号の特集では、教師が困難を克服する主人公となっていく展望はどこにあるのかを探っています。現状を学び、各地の取り組みに触れるなかで、明日からのヒントを得ることができればと思います。教師の方々はもちろん、教育現場の問題に関心をもっている方にもぜひ読んでほしい特集です。

障害者問題研究を読む会では、執筆者に直接語ってもらいながら、読者といっしょに意見交換をします。参加者からは、ひとりではなかなか読み切れないが、読む会でみんなで学べた、興味深い意見交換になった、という声が聞かれます。あなたも、この学びあいに参加してみませんか。

### 読む会はオンラインリモートです

『障害者問題研究』は、全障研の研究誌として、毎号、特集はじめ発達保障実践を深めていくための記事を掲載しています。全国各地から、教員・療育・成人分野・当事者・家族などさまざまな立場、職種がひとつの場に集い、学び合い、語り合います。

書籍のお求めは

全障研出版部

〒162-0801 東京都新宿区山吹町4-7 新宿山吹町ビル5階  
電話(03)6265-0193 FAX(03)6265-0194 www.nginet.or.jp

